食料支援・配送ボランティアが作る支援の輪

現在、多摩市内の子ども食堂などに食料を配送する、食料支援・配送ボランティアの活躍で、多摩市の子ども食堂に青果が届くシステムが出来つつあります。この取り組みをすすめられているボランティアの小俣裕史さんと、企画に賛同され、協力されている TOKYO フレッシュ株式会社の関根社長、相川さんにお話しを伺いました。

○こうした活動をはじめられたきっかけを教えてください。

小俣さん：2021 年の 2 月に関戸公民館で開催された「子どもの貧困に関する講演会」に娘が参加しまして、「お父さんも活動したほうがよいよ」と言われたことがきっかけでした。その後、ボラセンを訪ねて活動開始しました。それまでも個人的にフードバンクに寄付したりはしていたのですが、現在ではフードバンク団体や他の活動者と連携しながら、支援活動を行っています。

関根社長：小俣さんから、コロナ禍でのフードバンクや子ども食堂の現状をうかがい、自分たちにも何かできることがあるのではと思ったことがきっかけです。弊社は首都圏を中心に青果の卸業を営んでいますが、原点は多摩地域で創業し、多摩地域の発展とともに歩んできた会社です。そうした意味で育てていただいた地域の方への恩返しになればとも考えています。ゆるたまネットにも是非参加したいですね。

○実際に活動をはじめられて、いかがでしたか。

小俣さん：食料を届けた先の子どもたちから、「はじめて食べた」というメッセージをもらうことがあります。特に、嗜好品に類する果物は食べた経験がない子どもが意外なほどいるんです。食は人を作る基礎になるものだと思うので、こうした体験を提供できることに喜びがあります。

相川さん：青果提供の様子は社内のグループウェアを通じて皆で共有していますが、多くの反応が寄せられ、社内の反響に驚いています。こうした活動が地域への貢献になるだけでなく、社員のモチヴェーションもアップさせていることをうれしく感じています。

12/16～18 開催のゆるたまネット食料配布事業にも大量の青果をご寄付いただきました。

お話を聞かせていただいた相川さん

今年度も大妻多摩中学高等学校生徒会がフードドライブを実施されました！

生徒会で生徒や先生方からフードドライブを集めました。
支援が必要な方に届けてください。

大妻多摩中学高等学校生徒会の皆さんが、昨年度に引き続き、今年度もフードドライブを実施されました（11/17～21）。コロナ禍で生徒会活動もままならない中、「自分たちにできること」を自主的に校内に支援を呼びかけてはじまったこの取り組み。集まった食料は、多摩地域企業・大学等連絡会（ゆるたまネット）で 12 月に実施した食料配布（4 面参照）で配布させていただきました。ありがとうございました。